

現金を自宅の金庫などで保管する「タンス預金」が2025年7月に約47兆円となったもようだ。低金利を背景に23年1月時点で過去最大の60兆円規模まで膨らんでいた。金利上昇などの影響のほか、近年相次いだ広域強盗事件などを意識して自宅に多くの現金を置くことを避ける動きが広がった可能性もある。

タンス預金、13兆円減

「タンス預金」は家計や企業が使わないまま手元に置く現金を指す。国内の紙幣の中で最も高額の1万円札がタンス預金になりやすいとされる。第一生命経済研究所の熊野英生首席エコノミストが1万円札と千円札の枚数を基に試算したところ、24年から減少局面に入った。

金利上昇・強盗リスク 意識

「タンス預金」は家計や企業が使わないまま手元に置く現金を指す。国内の紙幣の中で最も高額の1万円札がタンス預金になりやすいとされる。第一生命経済研究所の熊野英生首席エコノミストが1万円札と千円札の枚数を基に試算したところ、24年から減少局面に入った。